医長紹介　～私の専門分野～

低侵襲で患者さんにやさしい上部消化管手術

外科医長　米田 晃

2020年4月1日より外科医長として赴任させていただいております米田 晃です。長崎大学卒業後、2003年に長崎大学移植・消化器外科に入局し、今年が17年目となります。2013年から2015年まで大学で上部消化管疾患の診療に従事し、その後2年間アメリカでの研究留学の後、2018年から2019年まで再び大学で上部消化管疾患を専門に診療を行っておりました。当院でも胃、食道外科疾患の治療を中心に、貢献できればと考えております。

近年では、食道癌や胃癌の手術においても、低侵襲性やキズが小さいとの利点から、鏡視下手術が広く行われております。当科でも常に鏡視下手術技術の向上に努め、“患者さんに優しい治療“を心掛けております。また、上部消化管手術は呼吸、食事にとても大きな影響を与えます。そのため、リハビリテーション、栄養管理などのチームサポートによって術後の早期退院と早期の社会復帰が可能となるよう目指しています。また、胃癌、食道癌の治療には、内視鏡治療、外科手術、抗癌剤治療、放射線治療があり、多岐にわたる専門家の関わりが不可欠となっております。多臓器浸潤を伴うような進行癌であっても根治性が望める場合は、拡大手術や放射線治療や抗癌剤治療と組み合わせて、根治を目指しています。機能温存と高い根治性を目指した消化管手術を目指して、日々研鑽し当地域の医療に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

研究留学の際には腫瘍免疫に関する基礎研究を行ってまいりました。大学でも腫瘍医学教室の池田教授にご指導いただきながら免疫治療に関する研究にも従事しておりました。消化管の再生医療の研究にも関わっており、それら経験をもとに、当科でもいろいろな臨床研究や治験にも積極的に参加し、先進的な治療の発展と導入を目指せるよう頑張っていこうと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

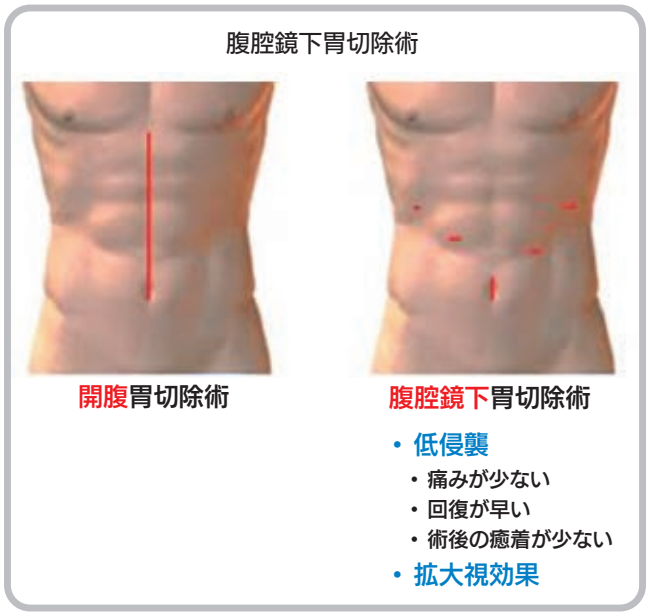

図1 胃癌 腹腔鏡手術

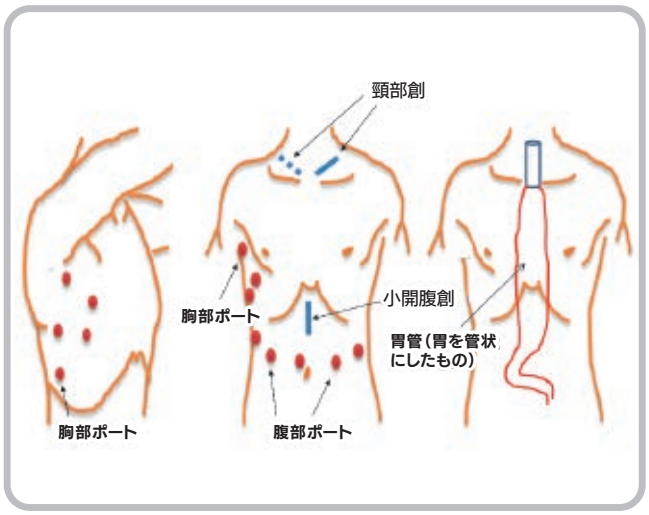

図2 食道癌 手術